

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

### 事業名 点訳音訳奉仕団育成事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111(内3482)

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 100 千円 (前年度予算額： 100 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	100	0	0	0	0	0	0	0	100
要求額	100	0	0	0	0	0	0	0	100
決定額	100	0	0	0	0	0	0	0	100

#### 2 要 求 内 容

##### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

点訳、音訳ボランティア及び外出サポートボランティア等の資質向上と活動の円滑化の推進に対して助成を実施。

##### (2) 事業内容

岐阜アソシアの点訳・音訳ボランティア及びその練習中の者、事務作業ボランティア等の協力者で組織する岐阜アソシア奉仕者の会の育成強化。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

県10/10 (定額補助)

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算 内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	100	ボランティア組織運営費等に助成
合計	100	

**決定額の考え方**

**4 参考事項**

**(1) 後年度の財政負担**

視覚障がい者の福祉向上と自立促進を図るため、県負担は今後も必要。

**(2) 事業主体及びその妥当性**

岐阜県図書館と視覚障害者生活情報センターぎふが相互協力により、全国に先駆けて実施した事業であるため、助成することは妥当。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	点訳・音訳奉仕団育成事業
補助事業者（団体）	社会福祉法人岐阜アソシア (理由) 点訳・音訳奉仕員を養成する唯一の団体であるため。
補助事業の概要	(目的) 点訳・音訳奉仕員養成研修事業において養成した奉仕員の資質向上。 (内容) ボランティア活動への協力や、研修会の開催に要する経費を支援する。
補助率・補助単価等	定額 (内容) (理由)
補助効果	点訳・音訳奉仕員養成研修事業において養成した奉仕員の資質向上。
終期の設定	終期5年度 (理由) 第3期岐阜県障がい者総合支援プランの周期に合わせ、事業継続を検討する。

### (事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>ボランティア活動への協力や、研修会の開催に要する経費を支援し、点訳・音訳奉仕員養成研修事業において養成した奉仕員の資質向上を目指す。</p>
--

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (S47)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	
					達成率	
①点訳及び音訳ボランティア数	-	350名	400名	400名	400名	87.5%
/						

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	100	100	100

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>点訳勉強会、点訳の集い、音訳勉強会、音訳学習会、点訳・音訳校正学習会、DAISY学習会、テキストデイジー・マルチメディアデイジー製作講習会</li> </ul>
	指標① 目標：400名 実績：350名 達成率：87.5%
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>点訳勉強会、点訳の集い、音訳勉強会、音訳学習会、点訳・音訳校正学習会、DAISY学習会、テキストデイジー・マルチメディアデイジー製作講習会</li> </ul>
	指標① 目標：400名 実績：350名 達成率：87.5%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li> </ul>	
(評価) 2	視覚障害者生活情報センターぎふを拠点に活動するボランティアによって組織する「岐阜はもんの会」の育成を強化し、点訳・音訳ボランティア等の資質向上を図ることで、視覚障がい者の文化、教養の増進に貢献してきた。
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li> </ul>	
(評価) 2	第65回全国盲人福祉施設大会(平成29年度開催)においてはボランティア4名がボランティア表彰を受賞するなど、効果が得られている。
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li> </ul>	
(評価) 2	奉仕団機関誌を毎月発行し関係者に配布することで、奉仕員相互の連絡を密にし、資質の向上に努めた。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が直面する課題や改善が必要な事項 視覚障がい者の社会情報、文化情報に対する要望に応える点字図書・録音図書の製作は、点訳及び音訳のほとんどが、この奉仕団の無料奉仕によって行われているため、活動の継続が求められている。</li> </ul>
---

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業継続のためには県の補助が不可欠だが、奉仕団の活動が視覚障がい者の社会情報等の取得に不可欠なため、引き続き県の補助が必要。</li> </ul>
--